

童話・お話・意見発表のちがい

童話 (低学年)

1. 児童前期の特徴

この時期の児童は、空想や想像を楽しむ。向上心を持つようになるのもこの頃である。昔話や伝説、物語を喜び、空想の世界に浸り、想像の翼を広げる時期である。

2. 作品選定の基準

- (1) 伝説、民話、昔話など古くから人々に親しまれてきたものをはじめ、郷土のお話、創作童話など。
- (2) あかるく、ほのぼのとした、感動と勇気を与えてくれる作品。

3. 内容

- (1) 発表する児童や聞く児童に健康で感動を与える話の展開になっている作品。
- (2) 登場人物の性格や心の動き、行動がよくわかる構成になっている作品。
- (3) 会話文と他の文が効果的に表現されている作品。

お話 (高学年)

1. 児童後期の特徴

この時期の児童は、知識欲が増し、精神面での成長も大きく、自分の生活を充実したものにしようと努め、これまでの空想を批判しながら精神を高めていくと言われている。個人の意思を集団の中で調和させることができる時期である。

2. 内容

子どもたちの生活の中にある美談や体験談を述べたもの。

3. 構成

- (1) 自分の考えや感想が明確になるように構成する。

- (2) 事実や体験したことを筋道を立てて構成する。

- (3) 事実と意見をきちんと区別して聞き手によくわかるように構成する。

意見発表 (中学校)

1. 青年前期の特徴

中学校は、青年前期で、この時期になると心身共に急速に発達し、特に情緒がいちじるしく細やかになる。

2. 内容

- (1) 自分の体験や実践に基づいた意見で建設的であること。
- (2) 自分が見聞きしたことに対して確固たる信念に基づいた意見があること。
- (3) 話し手が聞き手に向かって事柄や事実(具体的事例)や道理に対して意見や感想を述べ、説きあかし、結論がはっきりしていること。

3. 構成

- (1) 話し手が強調したいことを道すじ立てて述べ、聞き手を説得したり、共感を求めるよう構成する。
- (2) ことがらや事件、事実が切実な問題であるとともにその解決に向かって建設的で説得力のある意見であるように構成する。
- (3) 事実(事象)と意見を効果的に述べ要旨のはっきりした構成にする。
- (4) 論理を媒体として、自分の主張や提案や立場を効果的に述べ共鳴や共感を得る構成にする。

平成27年4月24日改訂